

## 『どうしてわかるの？サクラが咲く日』

七尾 純／著 アリス館（2002年）

みなさんは、桜前線って聞いたことがありますか？もうすぐ春というころ九州地方で、そしてゴールデンウィークには北海道へと日本列島各地に桜が咲いたことをニュースでやっていますよね。よく見かけるソメイヨシノは南から北へ、1月に満開になる沖縄のヒガンザクラは北から南へと開花していくそうです。どちらも桜なのに！種類が違うからじゃないの？いえいえどちらも桜です。じゃあなぜ？さあ、謎が解けたら、今年は近所の桜の開花日を予想してみませんか？



## 『サクラ咲く』

辻村 深月／著  
光文社（2012年）



引っ込み思案でなかなか自分の意見がはっきり言えないマチは、ことあるごとに友達に雑用を押し付けられていいように使われていました。ある日、図書室で借りた本の中に『サクラチル』と書かれた紙を見つけました。その後も借りた本の間にメッセージが挟まっていることがあります。メッセージを書いた人は孤独を感じているみたいです。同じように孤独を感じているマチは勇気を出してそのメッセージに返事を書いてみることにしました。

## 『花の撮り方きほんBOOK』

花をおしゃれに素敵に撮る。』

今道 しげみ／（他）著  
WINDY Co.／編著  
マイナビ（2012年）



花の撮り方を解説する本書。第3章では、桜に特化した撮影方法が紹介されています。専門的なレンズを用いた撮影方法がメインですが、アングルや撮影に適した時間、色味など、スマホのカメラでも参考になりそうなアイデアやヒントが多く掲載されています。例えば、桜を配置する位置を工夫し、画面の余白を大きくとると、水墨画のような美しい構図が期待できるそうです。

## 『さくら』

西 加奈子／著 小学館（2005年）

年末、大学生の「僕」は実家に帰り、久しぶりに家族と過ごしたり、犬のサクラと散歩に出かけたりします。大晦日の日、サクラと散歩に行った「僕」は、ガラス越しに市民会館の中を覗き込み、それがきっかけとなって幼い頃の思い出が次から次へと浮かんできます。そこには楽しい思い出も、つらい記憶もあって…。

サクラという名前は妹が別の花をサクラの花と勘違いしたことからついた名前ですが、サクラの蕾を見つけた時のようにほんの少し希望を感じられる1冊です。



## 『サクラオト』

彩坂 美月／著 集英社（2021年）

『サクラオト』では聴覚をテーマに謎が深まっていきます。桜の咲き誇る美しい場所でなぜか立て続けに凄惨な事件が起きていました。最初起こった事件で少女が口にした「桜の音が聞こえる」とはどういう意味なのか。なぜこの場所で事件が起こるのか。主人公と一緒に考えてみてください。ほかにも五感をテーマにした短編小説が5つ入っています。お気に入りのミステリーを見つけてください。



## 『桜の園 神代教授の日常と謎』

篠田 真由美／著 東京創元社（2009年）

W大教授の神代宗は同僚に伴われて古めかしい洋館「桜館」を訪れました。「桜館」とはよくいったもので、珍しい品種の桜が植え付けられ、満開の時期にはよく宴が催されていました。同僚は洋館に住む3人の老女を魔女と呼んで恐れ嫌っていますが、どこからその感情がくるのか同僚自身もはっきりとはわかっていません。昔の出来事をなぞるようにおこる洋館での出来事に神代も困惑してしまいます。同僚がこの洋館から足が遠のいた出来事とは何だったのでしょか。

